

14. グローバル都市の二重構造——六本木



(1) グローバル都市

● 歴史的背景

- ・ 1970年代に、先進工業諸国は、資本蓄積の危機に陥った。
- ・ 戦後の経済成長体制であるフォーディズム（大量生産体制、ケインズ主義、福祉国家）の危機。
- ・ 米国では、北東部や中西部の製造業が海外生産に転じて、脱工業化が進行。グローバルな生産体制を構築。途上国から先進国への労働力の国際移動も増大。
- ・ 米国の南部や西部では、ハイテク産業が勃興した。情報技術の革新による経済発展。
- ・ 米英における金融規制の緩和により、グローバルな金融資本主義が登場。金融技術の革新による経済発展。

● グローバル都市

- ・ 1980年代から、ニューヨーク、ロンドン、東京（？）など、グローバルな管理能力を集積する〈グローバル都市〉が生まれる。
- ・ 脱工業化による周囲の衰退をよそに、金融・保険・不動産、対事業所サービス業が集積して繁栄している（サッセン『グローバル・シティ』）。多国籍企業のエリートが集まる。
- ・ 多国籍企業のエリートのライフスタイルを支える対個人サービス業も発達。
- ・ 途上国からの移民労働者が、サービス業に参入する。
- ・ 従来の労働者階級や中産階級が減少し、高所得の高度専門サービス職と低所得の下級サービス職に二極分化する。

● 東京

- ・ 1980年代後半のバブル経済期に、ニューヨークとロンドンに並ぶグローバル都市に浮上すると喧伝された。→バブル崩壊によって、東京の競争力は後退。
- ・ ニューヨークやロンドンに比べると、製造業が多く残っているものの、脱工業化の傾向

は否定できず、情報サービス業が成長。

- ・ 厳しい入国管理により、移民の流入を統制。
- ・ 2000年代に、労働市場の規制緩和により、貧富の格差が拡大。
- ・ 東京都港区「六本木」は、東京のグローバル都市としての側面を極端に示す場所。

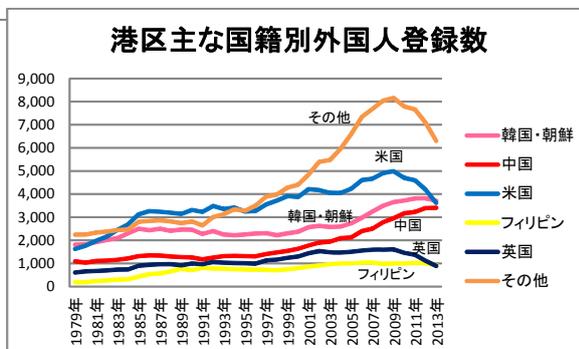
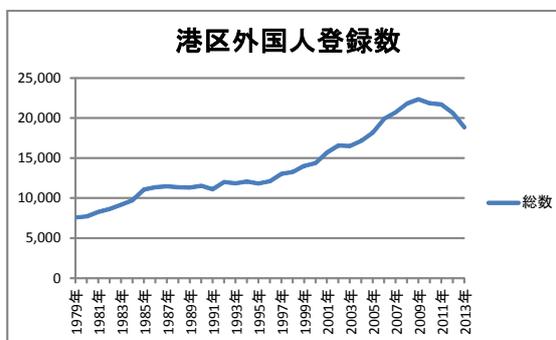
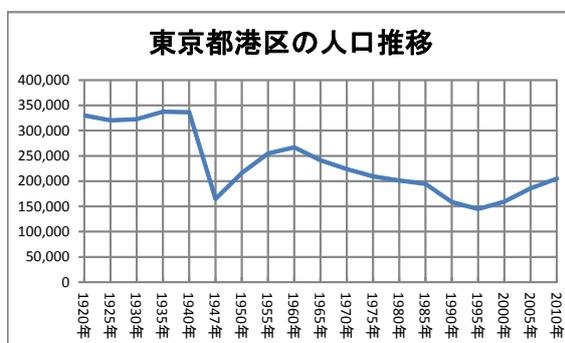
●六本木交差点 (Roppongi Crossing)

・ Roman Adrian Cybriwki, *Roppongi Crossing: The Demise of a Tokyo Nightclub District and the Reshaping of a Global City*, University of Georgia Press, 2011.

- ・ 滞日外国人 (ロシア系アメリカ人) の目に映った六本木の研究。
- ・ クラブ地区は麻薬に汚染され、無秩序。
- ・ 日本では「不良外国人」の排斥が行われている。
- ・ 六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館などの再開発によりグローバル都市への再編が行われている。新しい六本木は「監視社会」。

(2) 港区の概要

- ・ 千代田区、中央区とともに「都心区」。
- ・ 港区の人口 戦前は人口 30 万人を超える密集地。戦後は 1960 年に 26 万人。以後、1995 年まで人口減少。2000 年以降増加し、現在人口約 20 万人。
- ・ 外国人の多い街 人口の約 1 割が外国人。とくに米国人など欧米系外国人が集中している。



(3) 六本木の興隆

- ・ 六本木の由来：諸説あり。①「六本の木」があった。
- ②「上杉」「朽木」「青木」「片桐」「高木」「一柳」と木にまつわる苗字をもつ大名屋敷があった。
- ・ 六本木 六本木 1 丁目～7 丁目 六本木交差点を中心とした地域。

●武家の屋敷町から「軍隊の町」へ

- ・ 1874 年、日本陸軍第一師団歩兵第一連隊の駐屯地 (現在の東京ミッドタウン)
- ・ 1874 年、日本陸軍第一師団歩兵第三連隊の駐屯地 (現在の国立新美術館)

- ・太平洋戦争末期は空襲により焼け野原になる。
- ・1945年、敗戦とともに、軍の駐屯地は占領軍に接收され、米軍将校の兵舎となる。

●占領軍の街<アメリカ占領時代>

- ・占領軍の持ち込んだ物資が、闇市に流れる。それを仲介したのが暴力団。
- ・米兵向けのクラブ、バー、レストランなどが立地する。「東京租界」と呼ばれた。
- ・外国公館も多数立地し、六本木の国際色はこのときに形成された。

●独立と復興

- ・占領軍による接收が解除され、第一連隊の跡地は、防衛庁（当時）の庁舎及び陸上自衛隊檜町駐屯地となる。（→2000年、防衛省は市ヶ谷に移転）。
- ・1962年、旧第三連隊跡地に東京大学生産技術研究所が立地。（2001年、駒場に移転。跡地は、国立新美術館、政策研究大学院大学に）。

●ニック・ザペッティとピザハウス「ニコラス」

- ・1956年、日本初のピザハウス「ニコラス」開店。
- ・経営者は、イタリア系アメリカ人、ニック・ザペッティ。
- ・占領軍の兵士として来日。東京の闇商売で儲けたものの、強制送還される。
- ・ニューヨークのマフィアのコネで、再入国。「銀座の虎」と呼ばれたやくざと組んで、闇商売をつづけ、さらにピザハウスの経営に乗り出す。
- ・来日したアメリカの芸能人が立ち寄る店に。エリザベス・テイラー、ハリー・ベラフォンテ、フランク・シナトラなど。プロレスラー、力道山が出入りしていたことでも有名。
- ・当時の皇太子明仁と正田美智子も訪れている。
- ・経営を拡大して、事業に失敗。日本交通に店をとられることに。（ホワイトニング 2002）

●テレビ・メディアと六本木族

- ・1950年代後半～1960年代前半、六本木に集まる若者たち（ロカビリー族）は「六本木族」と呼ばれた。
- ・近くにテレビ局が立地しており、芸能関係者が出入り。加賀まりこ、峰岸徹、大原麗子、井上順などがいた。
- ・テレビ朝日（旧日本教育テレビ）、六本木6丁目（現在の六本木ヒルズの場所）に立地。
- ・TBSは赤坂5丁目に立地。

●地下鉄の開通と六本木の発展

- ・1964年地下鉄日比谷線開通。
- ・1970年代、第一次ディスコブーム。米兵がクラブやディスコに集まる（ベトナム戦争の時代、在日米軍基地からアメリカの若者文化が真っ先に持ち込まれる）。
- ・1973年、エンターテインメント「TSK・CCCターミナルビル」（東亜相互企業 Cerebrity Choice Club）開業。1997年に倒産するまで、著名人が集まる場所に。2008年解体。2003年～2007年までは、クラブ Vanilla（大規模ディスコ）がテナントして入っていた。

(4) 六本木の再編

●新興不動産資本「森ビル」の戦略

- ・ナンバービル時代 1955年森不動産誕生、1960年代、新橋・虎ノ門地区に第N森ビル。
- ・六本木アークヒルズ 1969年都市再開発法。「赤坂壺南坂地区再開発事業」。反対派の住民を説得して1983年着工、1986年竣工。
- ・六本木ヒルズ 発端はテレビ朝日本社ビルの建て替え構想(1982)。1980年代に再開発準備。1995年都市計画決定、2000年着工、2003年竣工。
- ・IT系新興企業や外資系金融機関が集中。ITバブルの成功者が集まる。
- ・六本木周辺の再開発 2009年～虎ノ門・六本木地区再開発事業など、職住遊が複合した「Vertical Garden City 立体緑園都市」を目指す(森 2009)。
- ・森ビルは、グローバル都市・東京の空間形成を担う象徴的なアクター。

●六本木に関わる人びと

<土地所有者> land owners

- ・小土地所有者
- ・不動産資本(三井不動産、住友不動産、森ビルなど)
- ・国家機関(防衛省、文部科学省などの地権者)。
- ・その他の法人所有者

<在住者> dwellers

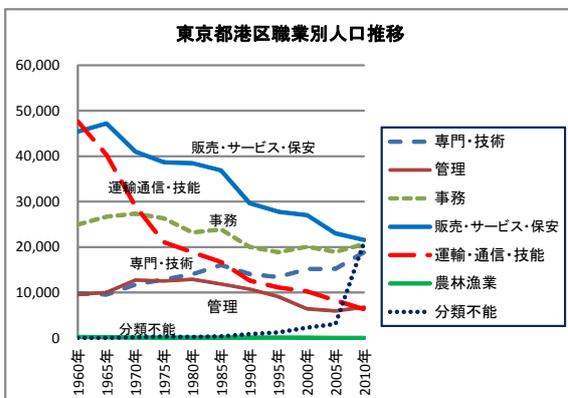
- ・地元商店主
- ・地元定住層(概して高所得の社会的エリート層)
- ・マンション居住者(「ヒルズ族」や多国籍企業の駐在員などの経済エリート)

<在勤者> workers

- ・下級サービス産業従事者(ホステス、バーテンダー、販売店員、客引きなど商業関係者)
- ・六本木周辺で働く専門職・技術職層(メディア関係者、金融業・不動産業従事者など)

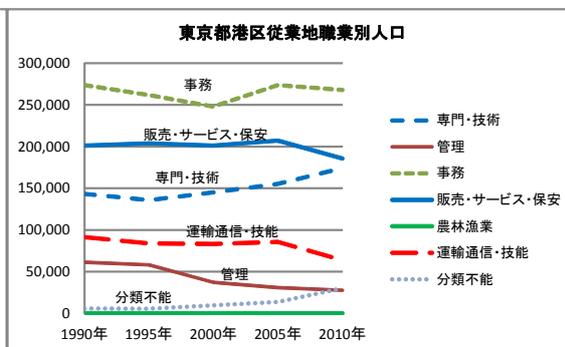
<来街者> visitors

- ・エリート顧客層(政治家、企業家、一流芸能人・スポーツ選手など)
- ・一般顧客層(観光客、とくに若年層)



港区職業別人口推移 (1960-2010)

在住者では、生産労働者とサービス労働者が減少、専門技術職が増加。

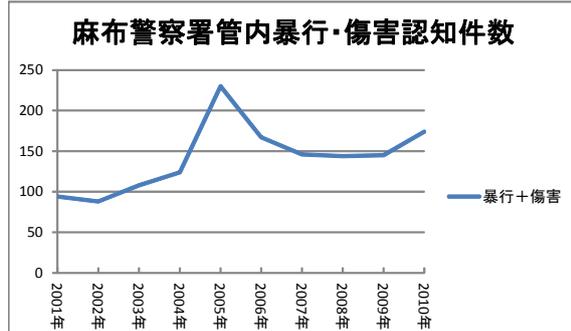
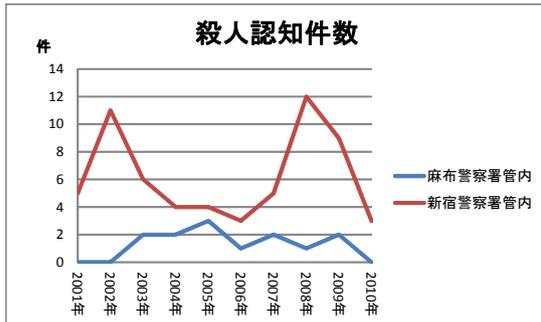
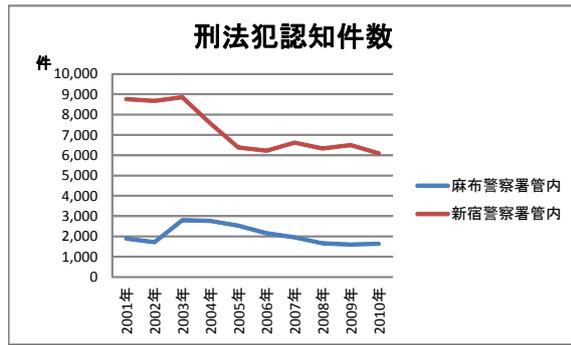


港区従業地職業別人口の推移 (1990-2010)

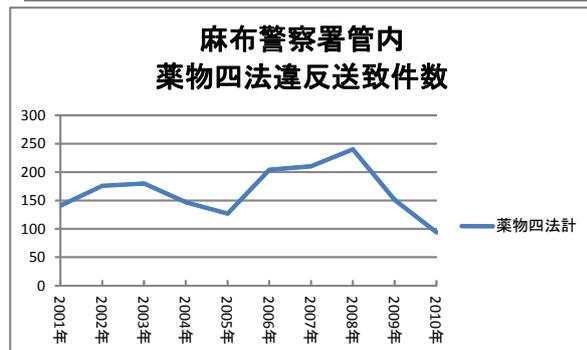
在勤者では専門技術職が増加

●六本木の治安（2000-2010）

- ・犯罪認知件数は低下
- ・殺人もごくわずか
- ・暴行・傷害などの街頭犯罪は、2005 年に向かって増加したが、その後低下。
- ・薬物四法（麻薬取締法・あへん法・大麻取締法・覚醒剤取締法）違反は 2008 年以降低下傾向



- ・六本木は「無秩序」であるという言説は正しくない。概して秩序は維持されている。しかし、2005 年前後に街頭犯罪がピークに達し危機意識が生まれた。
- ・その後の取り締まり強化によって、街頭犯罪や、薬物違反は減少した。



●都市再編と二重性の強化

- ・六本木ヒルズ・東京ミッドタウンなどの「管理された」空間／六本木交差点付近の「無秩序」な空間。
- ・セキュリティに守られた「フローの空間」と管理された祝祭性の演出。
- ・無秩序／解放された空間／裏秩序としての六本木交差点。
- ・政治エリート・経済エリートと下級サービス職の社会経済的二極化
- ・欧米系エリートとアジア・アフリカ系サービス労働者の人種的二極化
- ・コスモポリタニズム／ローカリズム、グローバリズム／ナショナリズムが交錯。
- "High Touch Town" "Roppongi Roppongi"（商店街振興組合とコスモポリタンなテナント）
- アメリカ文化の受容（闇市～六本木族）と反米愛国の心性（力道山～金魚クラブ）
- 「フローの空間」と「日本文化」毛利庭園・毛利家下屋敷
- ・六本木は、グローバル都市の二重性を極端に示す場所。